



RAMBLAS PRESS RELEASE

2026 年 8 月 28 日

ELMS 第4戦スパ・フランコルシャン。圧倒的な速さでトップを快走した佐藤万璃音、しかしチームのミスで幻の勝利となり、タイトルも遠のく結果に。



2023 年シーズンよりヨーロピアン・ル・マン・シリーズ (ELMS) に挑戦を続けている佐藤万璃音 (UNITED AUTOSPORTS USA 所属 26 歳) が、8 月 21 日～23 日にベルギー、スパ・フランコルシャン・サーキットで開催された 2026 年 ELMS 第4戦「4 HOURS OF SPA FRANCORCHAMPS」において、2 位を 10 秒以上引き離す圧倒的な速さでレースをリードしましたが、チームがセーフティカー導入時のルールを遵守せず、その結果 3 分間のピットストップペナルティを課され、優勝は幻と消えました。

昨年同様 LMP2・PRO/AM（プロ・アマ）クラスにエントリーする 21 号車は、ゴールドドライバーである佐藤万璃音がリーダーを務め、ブロンズドライバーのダニエル・シュナイダー選手、プラチナドライバーのオリバー・ジャービス選手と共に参戦しています。

前戦イモラで 3 位表彰台を獲得し、勢いに乗った 21 号車と佐藤万璃音は、自らが得意とするスパ・フランコルシャン・サーキットでのレースに向けて、万全の準備を整えてきました。

しかしマシンのセットアップが決まり切ってはならず、フリー走行ではオリバー・ジャービス選手が 2 分 04 秒 592 で 9 番手、ブロンズドライバーの練習走行ではダニエル・シュナイダー選手が 2 分 08 秒 152 で 11 番手というタイムをマーク。フリー走行 2 回目も 25 周をこなして 2 分 07 秒 862 で 7 番手という結果でした。

迎えた予選。いつもどおり、ルールに乗っ取ってブロンズドライバーのダニエル・シュナイダー選手がアタックします。ダニエル・シュナイダー選手は自己ベストを更新し、2 分 06 秒 476 までタイムを短縮しましたが、予選結果は 9 番手となりました。

レースのスターティングドライバーもダニエル・シュナイダー選手が務め、4 時間耐久レースは正午にスタートしました。LMP2、LMP2-PRO/AM、LMP3、LMGT3 の 4 カテゴリー 47 台が混走するレースです。佐藤万璃音がエントリーする LMP2-PRO/AM クラスは、実際のサーキット上ではライバルのみならず、同じ車両を使用する LMP2 クラスのプロドライバーたちとも戦わねばなりません。

レースは恒例のスパ・ウェザーと呼ばれる荒れた天候とはならず、晴天の中、無事スタートを切ります。しかしターン 5 で LMP3 クラスのマシンがクラッシュし、レースは 1 周目からセーフティカーが出され波乱の展開となりました。

すぐにレースは再開され、ダニエル・シュナイダー選手はアクシデントの混乱でポジションを落とすことなく、逆にひとつ順位を上げてコンスタントなペースで周回を重ねます。これまでのレースの中で、首位走行車のラップタイムと比較しても最も良いペースで安定した走りを見せてくれています。そして再びアクシデントが発生し、バーチャル・セーフティカーが出されるタイミングで、多くのチームは最初のピットストップのタイミングを迎えていました。25 分ほどでレースは再開しましたが、直後にアクシデントが発生し、今度はセーフティカーが出されました。

ユナイテッド・オートスポーツは、今回はいつもと異なる戦略でダニエル・シュナイダー選手に続き、佐藤万璃音を走らせることにしました。ダニエル・シュナイダー選手をピットに呼び戻し、佐藤万璃音に交代。一気に攻めの走りを見せる佐藤万璃音は、周囲のチームより一足先にプロドライバーに交代できたこともあって、すぐに首位に躍り出ると、そのままリードを広げていきます。2 番手に対して 10 秒以上のリードを築いた段階で、ピットにペナルティストップの通知が届きます。

ELMS の公式ルールでは、セーフティカーが出された場合はピットクローズドとなり、自車がコントロールラインを3度完全に通過した段階からピットインが可能になります。しかしチームは21号車がコントロールラインを3回通過する前にダニエル・シュナイダー選手をピットに呼び戻してしまったのです。

これによって21号車は3分間のペナルティストップを強いられることとなり、2周遅れでレースに復帰。その後、再びペースを上げて追い上げましたが、交代したオリバー・ジャービス選手には青旗が出され続け、すでに勝負権は喪失していました。

レースは6度のセーフティカーが出される荒れた展開となりましたが、21号車は2周遅れのまま、172周を終えた段階でチェッカーを受けました。結果は完走10位。かろうじて1ポイントを加算しましたが、ポイントランキングでは9位となり、シリーズチャンピオンを狙ううえでは、かなり厳しい結果となってしまいました。



●佐藤万璃音のコメント

「言葉にできない悔しいレースでした。自分としてはトップを快走していたのに、3分間のペナルティストップで2周遅れ。もはや何もできない状況でした。今回のレースは得意のスパ・フランコルシャンでしたし、ブロンズドライバーのダニエル・シュナイダー選手の走りも悪くなく、トップとの差も大きくない状況でドライバー交代が出来て、かなり優位に立ってレースが進められていただけに、チームが自分たちのマシンがコントロールラインを3回通過する前に入れてしまったのがわかり、万事休すでした。

ペナルティストップの3分間を除けば、個人のラップタイムアベレージは総合2位で終

えていましたし、表彰台は間違いのないレースでした。優勝できていれば、チャンピオンシップでもかなり優位に残り2戦を戦えるはずだったのですが、ここで10位はショックですね。勝てるレースを落としたのは、ドライバーとしてもチームとしてもやり切れません。

気を取り直して一旦日本に戻り、またシルバーストンでの戦いに備えます。シルバーストンまでにデータを解析してよりよいバランスのマシンを用意してもらい、優勝を目指して頑張ります。応援ありがとうございました」



●このリリースに関するお問い合わせ：有限会社ランブラス info@ramblas.co.jp